

## 第 15 期中間決算について

スカイネットアジア航空株式会社(本社:宮崎県宮崎市、代表取締役社長:高橋 洋)の第 15 期中間決算(平成 23 年 9 月期)について、下記のとおり報告致します。

### 記

#### 1. 平成 23 年 9 月期の業績(平成 23 年 4 月 1 日～平成 23 年 9 月 30 日)

##### (1) 営業実績

(単位:百万円)※未満切り捨て

	営業収入	営業利益	経常利益	当期純利益
23 年 9 月期 (22 年 9 月期増減率)	14,252 ( 12.0%)	218 (-57.5%)	55 (-82.2%)	34 (-87.2%)
22 年 9 月期	12,723	514	315	270
23 年 3 月期	26,345	1,056	825	769

(注)営業収入には、消費税等は含まれておりません。

##### (2) 財務状況

(単位:百万円)※未満切り捨て

	総資産	純資産	自己資本比率	資本金
23 年 9 月期	8,958	1,766	19.7	2,345
22 年 9 月期	8,668	1,299	14.9	2,241
23 年 3 月期	8,501	2,256	26.5	2,345

#### 2. 旅客搭乗実績(平成 23 年 4 月 1 日～平成 23 年 9 月 30 日)

※コードシェア販売分を除く

路線		利用率(前年同期差)	前年同期利用率
東京線	一宮崎	60.9%(-7.3P)	68.2%
	一熊本	69.7%(+7.9P)	61.8%
	一長崎	59.7%(-1.4P)	61.1%
	一鹿児島	68.8%(+11.7P)	57.1%
	一大分	56.0%( - )	-
	小計	62.8%(±0P)	62.8%
沖縄線	一宮崎	68.4%(+1.8P)	66.6%
	一熊本	58.8%(+3.9P)	54.9%
	一長崎	44.1%(-1.8P)	45.9%
	一鹿児島	55.1%(+6.2P)	48.9%
	小計	56.2%(+3.1P)	53.1%
全路線合計		62.4%(+0.3P)	62.1%

3. 運航実績（平成23年4月1日～平成23年9月30日）

	就航率		運航便数(便)		欠航便数(便) (うち天候起因)	
	今上期	前年同期	今上期	前年同期	今上期	前年同期
合計	97.3%	99.2%	9,516	8,303	262 (75)	69 (23)
前年同期差	-1.9P		+1,213 便		+193 (+52)	

4. 中間財務諸表

(1) 貸借対照表

(単位:百万円)

期別 科目	前事業年度末 (平成23年3月31日現在)	当中間会計期間末 (平成23年9月30日現在)	増減
(資産の部)			
I 流動資産	4,938	5,369	430
(現預金)	(2,439)	(3,279)	(840)
II 固定資産	3,559	3,586	26
III 繰延資産	2	2	△0
資産合計	8,501	8,958	456
(負債の部)			
I 流動負債	3,613	4,465	851
1 短期借入金	238	258	20
2 その他	3,375	4,206	831
II 固定負債	2,631	2,726	94
1 長期借入金	881	751	△129
2 その他	1,750	1,974	223
負債合計	6,245	7,191	945
(純資産の部)			
I 株主資本	2,080	2,114	34
1 資本金	2,345	2,345	-
2 資本剰余金	411	411	-
3 利益剰余金	△676	△642	34
II 評価・換算差額等	175	△347	△523
純資産合計	2,256	1,766	△489
負債・純資産合計	8,501	8,958	456

## (2) 損益計算書

(単位:百万円)

科目 \ 期別	前中間会計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当中間会計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	増減
I 営業収入	12,723	14,252	1,528
II 営業費用	12,209	14,034	1,824
営業利益	514	218	△296
III 営業外収益	21	56	34
IV 営業外費用	220	218	△2
経常利益	315	55	△259
V 特別損失	38	14	△24
税引前中間純利益	276	41	△235
法人税、住民税及び事業税	6	6	0
中間純利益	270	34	△236

## 5. 業績等の概要

当中間会計期間における我が国の経済は、本年3月11日に発生した東日本大震災(以下「震災」という)の影響により厳しい状況にある中で、引き続き持ち直してはおりますが、回復力の弱まっている海外景気の下振れ懸念や原油価格の高騰、為替レート・株価の変動等により、先行きは不透明な状況となっております。

九州においても、震災による自粛ムードを背景として、経済にマイナスの影響があり、当社も最主要路線である東京－宮崎線を中心にお客様の減少等、少なからず影響を受ける結果となりました。

このような事業環境の中、当社は、今年度から、2011年度～2012年度を対象とする2カ年の「新中期事業計画」に取り組んでおります。まずは、7月1日より新ブランド「ソラシドエア」を、新コーポレートカラーとして「ソラシドピスタチオグリーン」を各々導入し、次に、燃費改善や快適性等の機材性能向上とオペレーション品質の更なる向上を目的として、新型機(ボーイング 737-800 型機)の投入を実施致しました。

営業面におきましては、引き続きお客様にご利用頂きやすいサービスの提供を目指し、かねてより好評頂いている「バーゲン 28」に加え、「特売り3日前」運賃を便ごとの空席予測に連動して設定する等の施策を実施致しております。期間としての全路線合計の搭乗率は前年同期を僅かながら上回った結果、営業収入は 14,252 百万円(同 12.0%増)となりました。

上記の通り増収とはなったものの、以下の諸要因により経常利益は 55 百万円(同 82.2%減)、中間純利益は 34 百万円(同 87.2%減)と減益を余儀なくされました。

- ①原油価格高騰に伴う航空機燃料費の増嵩
- ②急激な円高による外貨建て資産の評価損(為替差損)の計上
- ③欠航便 262 便に関する収益機会の逸失および臨時経費の発生

一方、財政状態は、営業活動から創出されたキャッシュフローが投資活動と財務活動における資金支出を十分に賄い、現預金残高は 3,279 百万円(前期末比 840 百万円増)となっております。

なお、期間中にソラシドマイルクラブ会員の個人情報誤表示(対象1名のみ)されるという事象が発生しましたが、直後に社外有識者を中心に構成される専門委員会を設置、原因究明と対策に関する調査結果を踏まえ、一旦停止した同マイルクラブのサービスを再開するとともに、情報セキュリティ強化に取り組んでおります。

今後ともボーイング 737-800 型機への更新(2カ年で6機を調達)を始めとしたオペレーション品質向上と新ブランドの定着、市場認知度の向上、顧客基盤の拡充に邁進致します。

以 上